

## 第八次福井市総合計画審議会 専門部会 第3部会(第2回)

■日 時:令和3年5月11日(火)13:30~14:45

■場 所:福井市役所 本館3階 第3会議室A

■出席者:別紙のとおり

■会議内容

## 1.開会

## 司 会

それでは、定刻前ではございますが、皆様おそろいですので、総合計画審議会 専門部会の第3部会 第2回目を開催させていただきます。

皆様におかれましては、公私ともにお忙しいところご出席いただきまして、ありがとうございます。

なお、本日、高見様はリモートにてご出席いただいております。

それでは、早速ではございますが、審議に移りたいと思います。

南保部会長、よろしくお願いいたします。

## 2.議事

## (1)政策11「観光に関する政策」について

## 部会長

それでは、ただいまから議事に入りたいと存じます。

先日は、政策9及び政策10について審議いたしました。今日は残りの政策11「観光に関する政策」について審議を行ってまいりたいと存じます。

なお、審議に当たっては、委員からのご意見をできるだけ多くいただきたいので、事務局からの説明は完結をお願いしたいと存じます。

では早速、事務局から説明のほどよろしくお願いいたします。

## 事務局

説明に入ります前に、本日、卓上にお配りした追加資料について説明させていただきます。

この資料は、第3部会が審議する政策につきまして、他の専門部会からいただいた意見のうち、この部会に関連するものをまとめた資料でございます。また後ほど部会長からもご紹介があると思うんですが、こちらの資料も踏まえて、本日、ご審議いただければと思います。

以上でございます。

## 部会長

ありがとうございました。では、続けます。

今、事務局から説明があったとおり、ほかの部会からの意見が3つありましたが、まずは前回審議した政策10「商工業に関する政策」の施策④「多様な人々が活躍できる雇用環境を推進する」の部分に関しての意見を報告します。

意見の内容としましては、「医療や介護の現場で外国人の看護師や介護士も増えてきているので、(外国人の労働)環境整備ということも入れてもらう方がよいのではないか」というものでした。

この点について、委員のご意見をいただきたいと存じますが、いかがでございましょうか。

委員

この項目④の1のところの言葉を変えるという意味でしょうか。

部会長

そうですね。

委員

実際、今現在、福井市に外国人の介護士の方は何人いるんですか。

部会長

事務局、よろしいでしょうか。

事務局

今資料としてはございませんので、第3回の会議でまたご報告させていただきます。申し訳ございません。

委員

もともと「多様な人々が活躍できる」と書いてあるので、この言葉の大項目の中にもう「外国人の方」というのも入っているのではないですか。

部会長

そうですね。私もそのように考えますが。  
どうですか。

委員

多分、ここは外国人の看護師とか介護士と書くところを限定してしまう。でも確かに外国人は県全体ではすごく増えていて、1万 5,000 人ぐらいが在住しています。確かに全国的にも「共生」とかは大きなキーワードになっていますので、「外国人」とか言葉は入れてもいいのかなと思いました。

部会長

ということは、あまり「外国人」という固有名詞に近い言葉というよりは、「国内外を問わず多様な人々が活躍できる」という感じで和らげるほうが違和感はないのかなと。

「外国人」と入れると、今度は日本人はどうするのとなる。少し和らげるという意味では、「国内外を問わず多様な人々が」という感じで続けられるほうがいいのかなという感じはします。

いかがでしょうか。

委員

そのとおりで結構かと思います。

部会長

では、この意見についてはそういう感じにさせていただければと思いますが。よろしいですね。

〔異議なし〕

部会長

では、ご意見を尊重させていただきたいと存じます。

次に、政策 11「観光に関する政策」に移りたいと存じます。

なお、審議に当たりましては、委員からのご意見できるだけ多くということで、前回に引き続き、事務局は簡潔にご説明いただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

## 事務局

それでは資料番号4 第八次福井市総合計画素案の12ページ、政策11「観光に関する政策」をご覧ください。

まず、現状ですが、第八次総合計画の計画期間内においては、北陸新幹線福井開業や、中部縦貫自動車道全線開通をひかえており、本市では観光誘客など交流人口の拡大を図る絶好の機会を迎えています。

詳細については、データを用いてご説明させていただきます。恐れ入りますが、お手元の参考資料「福井市の現状データ集」73 ページをご覧ください。

昨年 2 月に、日本政策投資銀行北陸支店が発表したレポートによりますと、新幹線開業が県内に及ぼす経済波及効果は、宿泊やお土産購入等による直接的な効果と、消費拡大による生産誘発や所得増加による個人消費の拡大など間接的な効果を含め、年間約309億円が見込まれています。

次に、データ集 77 ページをご覧ください。

このグラフは、首都圏における北陸三県の都市や、観光スポットの認知度を示したグラフです。グラフの左側に記載している都市の認知度では、金沢市や富山市に比べ、本市の認知度は低い状況となっています。またグラフ右側の観光スポットにおいても、本市の一乗谷朝倉氏遺跡は7.8%、養浩館庭園は1.0%と、他の観光スポットに比べ、認知度は低い状況となっています。

このようなことから、北陸新幹線の出発地である首都圏において、本市の認知度向上やイメージではップの強化を図り、新幹線開業効果を最大限に高める必要があります。

そのため、本市では、昨年4月「新幹線プロモーション課」を創設し、イメージロゴ「福いいネ!」を制作して、これをプロモーションの旗印として、様々な取組を展開しているところです。

なお、イメージロゴについては、各委員の卓上にありますアクリル板の下の部分にシールで貼っているものでございます。

ここで、元の資料に戻りください。資料番号4、第八次福井市総合計画素案の12ページでございませう。このような背景をふまえて、次の3つの施策を掲げました。

まず「1 観光資源を磨き上げる」についてです。

本市観光の3つの拠点「一乗谷」「まちなか」「越前海岸」のさらなる磨き上げとともに、県内嶺北のさまざまな観光資源の連携により、「ふくい嶺北連携中枢都市圏」による広域観光としての相乗効果が発揮されるよう、魅力向上に取り組みます。

次に「2 誘客プロモーションを強化する」についてです。

本市のイメージロゴ「福いいネ!」を、プロモーションの旗印として、官民で活用し、本市の認知度向上、イメージではップにつなげます。

また、若い世代や、外国人観光客に訴求力のある SNS など、インターネットを積極的に活用し、ターゲットに応じた効果的な情報発信を行います。

最後に「3 おもてなしの充実を図る」についてです。

本市を訪れる観光客をおもてなしの心で温かく迎える「観光おもてなし市民運動」を推進するとともに、福井の魅力をしっかり伝えることができる観光ガイドや、インバウンドに対応できる通訳ボランティア等を育成します。

また、観光案内機能の強化や、キャッシュレス、インターネット環境の整備を促進するとともに、コロナ禍をふまえた感染症予防対策の徹底など、安心して快適に旅行を楽しめる環境づくりを

進めます。

以上で、「政策Ⅱ 観光に関する政策」の説明を終わります。

#### 部会長

---

ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明を踏まえて、素案について委員の皆様方からご意見をいただきたいと思えます。

その前に、先ほどの添付資料をご覧いただきたいと思えます。

観光施策について他の部会から意見内容が出ているわけなんですけれども、意見の内容としては、第Ⅰ部会から、「中心市街地における賑わいの創出にあたり、再開発や新幹線が整備された後の視点に立つと、夜間の賑わいや回遊性などを入れていってもよいのでは」というものでございます。こういう意見が出ました。

またほかにも、「観光プロモーションの一環として、アニメや、ドラマ、小説などと連携した仕掛けを創出してはどうか」といった意見もありました。

この点も踏まえながら、ご意見をいただきたいと思えます。いかがでしょうか。

観光については、やはり「新幹線開業」というのが今回は一つの目玉でありますし、それが前には入っていなかったですね。これが入ったこととか、少し細かい見直しもあるようですので、ご忌憚ないご意見いただければと思えますけれども、いかがでしょう。

#### 委員

---

少し個人的な意見も含めてになってしまいますけれども、福井市内に歴史的に重要な物語なのか、エポックメイキングができる所が結構たくさんあるなと思えます。ただ、残念ながら、観光で来られたお客様が、果たしてそれを目で見える形になっているかという、残念ながらあまり多くないと感じています。

とはいえ、やはりその土地に来ないと分からないこととか、その土地に立たないと感じられない空気とか、リアルな旅行が全国的に止まっている今だからこそというのか、アフターコロナを考えたときに、やはりリモートの旅行では味わえないものというのは絶対あるよねというのがすごく出てくると思うんですね。

そうしたときに、例えば一乗谷朝倉氏遺跡をリモートで見ただけでは絶対その魅力が伝わらなくて、やはりあの場所に立ってその歴史や背景を語れる人から説明を聞くことによって、ああ、昔ここでこんなことがあったんだとか、ここにこんなものがあったんだとか、それが観光の醍醐味の一つではないかなと感じています。

一つ、ガイドのことが③番の「おもてなしの充実を図る」というところに出てますが、やはり本当に福井のことをよく知った人が観光のお客様に歴史的な背景とか、バックボーンをきちんと伝えることができる体制を支援していくことがすごく大事ななことかと思えます。

もう一つは、①の「観光資源を磨き上げる」の4番目に、「広域観光圏としての魅力の向上に取り組めます」というのがございまして、これも重要だと思えます。やはりよほど集客力のある施設、土地であれば、ピンポイントでお客様がそこだけを見に来るといった観光もあり得るんだと思うんですが、実際に観光で来られるお客様は結構回遊をされるケースが多いと思えますので、福井市内の魅力的な観光地と併せて、どこを回るといいんですよというようなルートの提案みたいなものができれば、例えば「石がたり」というのも一つのテーマだと思えますけれども、テーマに沿った周遊ルートをお客様にご提案ができると、ここを見た後は、次はこちらへ行かれるとよろしいですよというようなご提案が大事なのかなと思えました。

#### 部会長

---

ありがとうございます。大変重要なご意見。

やはり福井県、福井市はその代表なんでしょうけれども、深い歴史がある割に、それが見た目  
で伝わってこないですね。そこら辺はやはり観光ガイドなり語り部の養成、育成、支援が大事だ  
と思います。

2つ目の広域連携による観光というか、そういったところを切り口に観光ルートの提案まで行け  
ばということですので、それを入れ込んでいきたいなと思います。いいご意見だと思います。これは  
ぜひ前向きに入れ込むように検討していきたいと思います。

ほかどうぞございましょうか。

---

#### 委員

今のお話、本当に全くそのとおりだと思うんですけどもね。同感です。

実は、第七次総合計画との比較表を見ますと第七次と第八次はほとんど変わってないんです  
よね。変わってるのはまさに新幹線です。

新幹線は、要するに交通網なんですよ。先ほどから「回遊性」とか、このペーパーにも「聖地  
巡礼」とかというような言葉も出ておりますけれども、ここにはMaaSという発想が薄いんです。

「誘客プロモーション」のところで、「県や「ふくい嶺北連携中枢都市圏」の構成自治体とも連  
携し、一体的かつ集中的に展開する」という、巡礼とか回遊性を重くみている発想で書かれてい  
る文章なんだろうと思うんですが、ここではこのままでもいいかなと。実際の実施計画のところで、  
具体的に今おっしゃったような、「石」というテーマでこういうMaaSができますとか、何かチャレン  
ジの実施計画の項目を作っていくってほしいですね。

例えば先ほどの一乗谷朝倉氏遺跡とか恐竜博物館、永平寺を回遊するような、非常にスムー  
ズに行けるようなものを、福井市だけではできませんけれども、実施計画の中でそういうチャレン  
ジ的な目標を1つ2つ入れてもらいたいなと思います。

---

#### 部会長

ということは、デジタル社会で Society5.0 をにらんだとか、未来社会の在り方の一つとしての  
ツールであるMaaSの利用ですから、何かキーワード的なものを一つ入れてもいいのかなと今思  
ったんですけども。その内容が回遊性とか、観光地の紹介とか、あるいは観光地同士の連携と  
か、そういったことをデジタルツールを使ってやるということをイメージできるようなキーワードを、  
それが Society5.0 がいいのか、単純にデジタル社会を意識したツールを使って何かうまく観光を  
結びつけてやりますというのがいいのか、言い方はいろいろあると思うんですが、少しにおわせて  
おいて、実施計画の中で具体的に今のMaaSのお話なんかを入れていくというふうなことでよろ  
しいんですね。

---

#### 委員

ええ。

---

#### 部会長

何かいい言葉あるかな。

---

#### 委員

②の2のところに「ICT」と一つ入れればそれでイメージは少し入るかもしれませんね。

---

#### 部会長

では、それも含めて、少し検討していただけますか。「ICT」、大きく言えば Society5.0 なんてし  
ょうけれども、ICTが分かりやすいと言えれば分かりやすいですよ。それをキーワードで1個入れて



いただいて、実施計画の中で具体的な観光に結びつくようなデジタルツールの使いこなしの件を入れていただければいいのかなと思います。

では、そんな感じで考えさせていただきたいと思います。よろしいですか。

委員

---

はい。

部会長

---

ありがとうございます。ほかどうでございましょうか。

委員

---

皆様のご意見を聞いていて、いい意見だと思うんですが、昔のものを活用するのもいいと思うんですけども、これは今までやってきているので。そこでまた新しいものを一つでも加えたら、より一層観光アピールできるのではないかなと思って。最近ニュースで見たんですけども、セーレンプラネットというものがあって、多分それは今はまだ注目されていないくて。今話に出たように、デジタル技術の魅力を伝えるためにも、その施設を活用するのもまた新たな発掘なのかなとは思いますが。

部会長

---

そうですね。全然悪くないと思います。いいアイデアだと思います。

総合計画の中で固有名詞は大丈夫なんですよ。

事務局

---

セーレンプラネットは、「自然史博物館分館」と記載しております。その次の政策12の中の③の一番最後の「・」のところに、「県や大学、JAXAなどと連携を図る。また、自然史博物館分館において、県民衛星プロジェクトが提供されるデータ利活用」云々と記載しております。

仮に観光のところで書くとなると、固有名詞としては「自然史博物館分館」となると思います。

部会長

---

かぶるということでしょう。

事務局

---

はい。

教育委員会と話す必要はありますが、この13ページの③の「自然史博物館分館」が書かれているところに、「県内外の子どもたち」などの表現を加えておくことも可能かとは思いますが。

部会長

---

そうですね。

これは教育でも必要なんでしょうけれども、観光でも必要なもので、これはテクニックでしょうけれども、かぶってもうまく表現を少し変えること。ターゲットを変えることによって、そのツールの使い道は変わってくるので、両方使っても目的が違えばいいと思いますので、そこら辺少し表現を変えていただいて、今の御意見を生かしていただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

事務局

---

検討しまして、いずれかの形で活かすような形にしたいと思います。

部会長

---

はい、そうですね。どうでしょうか。

委員

基本的に今企画されているのは、新幹線開業効果を最大限に生かすというお話だったと思うんですね。そうすると、遺跡関係とか、特定の部分について、最終的な一つの企画として周遊するような取組というのが少し分からないんですが。当然、普通の観光バスですと、周遊とはそのまま観光地へ行くということだと思ってしまうんですけども、やはり新幹線になりますとこれだけの場所へ行くのは多分不可能だと思うので、そこら辺を商工労働部と連携した中でいろいろな企画を入れて回っていただくというのも一つの手かなと思います。

部会長

そうですね。

新幹線は福井へ来るための手段で、福井市で新幹線を有効活用というのは少し難しいと言えれば難しいですね。それだけに注目しても。

委員

もし私達が東京へ行くとしますと、はとバスとかいろいろある中でいろいろな企画があるんですね。食事がついていろいろなことをやってみたりということなんですが、逆に新幹線で来られた方に対してそういう部分を設けてあげると、また観光業として一つ引き立つのかなと思っているので。

部会長

新幹線客への観光案内的なのということですか。

それと、福井での乗降者に対して福井市内の周遊ルートというか、それらをきちんと組み立てて迎えるということ。

そうですね。観光ルートを組み立てる。これは委員の広域観光圏の創出とも非常に関係してくるのかなと思いますけれども、それを特に新幹線客に絞った観光ルートの提案というようなことも考えておかなければいけないということですね。

ということは、これは誘客プロモーションにも、おもてなしの充実にも両方入ってくるんですね。

②の2と③の3を少し膨らませたような形になるのかなと思ったんですが。

観光ルートの提案などから観光地としての認知度向上につなげますという形で、②の2ですね。「北陸新幹線」云々書いてありますが、その後ろのほうで「一体的かつ集中的に展開することで、観光ルートの提案などを通して観光地として認知度向上に努めます、つなげます。」とか、そういう表現でどうですかね。つながってくると思いますし。

それから、③のおもてなしの充実を図るの中では、「北陸新幹線福井駅における観光案内機能を強化するとともに、キャッシュレスやインターネット環境の整備を促進します。さらに、感染症という新しいもの」と書いてあまりすけれども、ここに「観光ルートの提案などにより」ではかぶってしまう。

これをどちらかに入れていただけますか。先ほど委員からも出た、広域観光圏とか、観光ルートの提案とかありましたので、今回は北陸新幹線客にターゲットを絞り込んだ周遊ルートの提案とか、おもてなしあるいはプロモーションというところで少し入れ込んでいただけないのかなと思います。

新幹線絡みの経済効果額 309 億円ってもう無理ですよ、今のところね。

マリオットホテルがかなり誘客する自信があるみたいなので、外国人客を中心にかなり入れ込むような話は聞いたんですけども、何か情報入っていますか。

委員

いや、申し訳ありません。まだ具体的な情報は。

部会長

全然計画の変更も何もないので、そのまま進んでいくとなると、あそこの会員だけでも 1,500 万、1,600 万人ぐらいいるんでしょうから、そこの外国人客を福井に入れ込むというと6万 8,000 人ぐらいの騒ぎでなくなってしまうんですけれども。

どうでしょうか。何かありましたら。

委員

そうですね。私のほうではまた考え方が少し違うかもしれませんが、ここの②の3で若い世代、外国人ということで挙がっておりますけれども、やはり国内の、例えば定年後とか、あるいは高齢者なんかも、当然、大きなターゲットになっていると思うんですが。ただ、高齢者なんかですと、まだまだアナログ的な、例えば『るぶ』とか、『まっぷる』といった観光の情報誌なんかで情報を見ながら、それを片手に歩くとかいう方も多分おられると思います。

SNSやインターネットを使える世代も当然いますし、そういった層も多いと思うんですが、やはりまだまだそういう最新のツールを使えない層もいると思うんですね。ですから、例えば観光雑誌をリストアップして、もう少し絡んで、例えばタイアップして作るとか。イメージ的にはちょっと違うかもしれませんが、こんな感じでアナログのほうももう少し充実したほうがいいのかも思いません。これが一つです。

それともう一つは、いろんな広域の観光地等を見るに当たって、これは福井市だけではないかもしれませんが、公共交通機関でスムーズに移動しようとするとなかなかそうはいかない。ある地点から、次の地点へ行こうと思ってもすごく待ち時間があってなかなかスムーズに行けないとか。移動手段についても公共交通機関のさらなる利便性の向上という形で当然お考えだと思いますけれども、一朝一夕にはいかないかもしれませんが、さらに充実したものにしていこうと考えてあげないといけないのかなと思います。

部会長

ありがとうございます。

大事な視点ですね。アナログ案内と言えば、福井駅の東側にある観光案内所は結構利用されているわけでしょう。今、高齢者の視点が抜けていたので、大変重要だと思いますので、これを入れていかなければいけないし、高齢者向けの誘客案内をやっていくということ。それから二次交通網については何か考えているんですかね。

事務局

先ほどから、ICTなどいろいろ話が出ておりますが、MaaS交通 (Mobility as a service)、いわゆるいろんな公共交通をシームレスにつないで、生活交通や観光も含めて、対応していこうということで、政策1のところでそのMaaSシステムということを掲げています。

部会長

MaaSで全部含んでしまうということですね。

事務局

はい。

委員

少し話がずれてしまうんですけれども、今の話に関連して言いますと、国はガバメントクラウドを活用したいと。それで、各自治体が業務のシステムを統一標準化されれば、各自治体では主要な



手続はオンライン・ワンスオンリーのサービスを住民に一発で提供できるようになる。住民はスマホさえ持っていればいい。何も窓口に来なくてもいいというようなことをやっているわけで、そういう標準装備のシステムになれば、もうMaaSも何もかも大きなデータを持っているんな施策ができるはずなんですよ。

この総合計画は、行政サービスをよくしますよという話なんだけれども、その大元の市役所そのものが電子自治体に向かって進んでるわけですから、その項目が総合計画に抜けている。市役所そのものがどれだけ効率的に、どれだけ有効な政策を打てるかという、そのために努力して、令和7年度末には全ての地方自治体でこの業務システムの統一標準が終わるということになっているので、まさに八次の最中ですよ。だから、そういう意味で、令和8年度の4月から圧倒的にこれ以上のことができるような話になっているはずなんです。なのに、総合計画の項建てとして、市役所自体がどのように変わっていくのかというのがない。

今まで、そういうつくりなんだからなくてもいいんですけど言えばいいんだけど、そういう項目が別にあるとすれば、今、交通の話や観光の話、あっちこっちに分かれてはいるけれども、まとめて一つで説明できるというような項目があって、頭にすっきり入るようになるのではないかなと思うんです。八次を作り直せというわけではないので全然別の議論ですけど、意見としてはそう思います。

#### 部会長

---

私はそこら辺よく分かりませんが、国がデジタル庁をつくるようなもので、総合的なそういう次世代型の情報ツールというか、デジタルツールというか、そういうものをコントロールするようなセクションが、市として要るという話になるんですか。そういうことなんですか。

#### 事務局

---

今ほどの委員のご発言についてなんですけれども、おっしゃられるように、これからデジタルを進めていくのは2025年度末まででしたか、もう国策でもありますし、当然、総合計画の中でも書いていかなくてはいけない話ではあります。国が自治体デジタルトランスフォーメーション(DX)推進計画というものを示し、基幹システムについて国も県も市も全部一体にして進めていくということについて、今も法案をつくっています。デジタル化は、この総合計画を推進する土台部分として係ってくることになります。

その他、政策が14ありますけれども、それぞれにこのデジタル化というのを書くわけにもいきません。これまでも総合計画を策定する際に、この審議会に委ねている部分と、総合計画を推進するために、いわゆる行政改革的な部分でこの施策を推進するための取組というものを最後に加えるような形を取らせていただいています。その中でデジタル化というのは入れていきたいと考えているところでございます。

#### 部会長

---

そうですか。

項建てしてなくても、その分については最終的にまとめて一発で書き込むということですね。

#### 事務局

---

はい。

#### 部会長

---

分かりました。

では、こここのところで個別にあまり入り込まないで、先ほどの委員から出たICT系ぐらいの話でどめおくということにさせていただきたいと思います。

## 副部会長

商工会議所でも少しディスカッションをしたんですけども、観光について、先ほども意見が出ましたけれども、MaaSを含む観光アプリみたいなものを積極的に開発して、Society5.0時代にふさわしいデジタルプラットフォームをぜひつくっていただきたいということが意見としてありました。

それから、1番目の「観光資源を磨き上げる」のところで、やはり福井市として考えると、歴史的遺産や史跡はあるんですけども、もっとこれからは見る観光から、体験する観光というのを拡充する必要があるのではないかとということで、体験型観光は市と商工会議所でも力を入れて、JRと一緒に『ふくのね』という雑誌を作りながらやっていますけれども、この体験観光をぜひもっと観光資源を磨き上げる項目の中で主に置いていただけないかなと思いました。

それからもう1点、③の1つめの「・」の「つつるいっばいのおもてなし」というフレーズがあるんですけども、このニュアンスは分かるんですけども、観光おもてなし市民運動というのがまだどうもメジャーではないというか。いろんな取組を市もやられているんですけども、もっと理解がなされて各団体とかが主体的に動くようなものにしてはどうかという意見があります。

スローガンも、ここで「つつるいっばいのおもてなし」と何かやるのではなくて、もう「福いいネ」なら「福いいネ」に統合してもっとパワーアップするような観光おもてなし強化事業を、市民運動というよりも強化事業を大きく膨らましてやっていく必要があるのではないかと意見もございます。

最後にもう1個ですけども、先ほどデータの中で観光入込客数を表示されていたんですけども、どうやら観光入込客数だと各施設の統計を足しているだけで、観光関係の事業者からすると少し実感がないという意見もあって、やはり宿泊客を倍増させる、それを目指して経済効果を最大限に引き上げるような取組を行うということ、目標となるのか、施策になるのか、そこはお任せしますけれども、ぜひ大きく掲げて、それに向かって何をやるんだといろんなところが知恵を出し合っ取り組んでいくようなことが必要ではないかという意見があります。

## 部会長

4つです。大変いい意見ばかりで。特に3番目の「おもてなし市民運動」ではなく「強化」というのは、福井市だけではなくていろんな市町が取り組まなければいけない課題でしょうけれども。これは、「オール福井で推進します」と書いてあるけれども、もう少し強い表現に変えていきたいと思えますし、先ほどの話と混ぜながら、MaaSを含む観光アプリ等のデジタルプラットフォーム化ということも入れていきたいと思えます。あとは「見る」から「体験」、これはこの前に出た産業観光化とも非常に絡んでくるのかなと思っていて、何かしら産業観光というフレーズというか言葉で、「見る」から「体験」というところに注力するという話も入れ込めたらいいなと思えます。

あと宿泊倍増計画は、恐らく経済性がすごく上がっていくだろうと思えますので、これは何か、しんどいんですけども、どこかに入れ込むことも大事だと思いますので、また検討して入れさせていただきたいと思えます。

大変いい話ありがとうございます。

## 部会長

いい意見でしたね。もう皆さん全部いい意見なので、観光はいろいろ入れ込むことがたくさんあって、大変ですね。

あと、どうですか。

## 委員

皆さん結構すごくいい意見をいっぱい出されていますので、2点だけ少し考えを述べます。

まず、①番の「観光資源を磨き上げる」について、今までの歴史的なものというものもいいんだけれども、さっきあったように、さらに新しい何か見えるものを加えるといいと思います。

もちろん、新たに例えばすごい魅力的な何かを建てるとか、そんなものいいんだけれども、もう一つ、さっきのデジタル技術を利用して魅力を見せるようにする。

実は外国人の視点から見ると、戦国城下町の魅力というのがなかなか伝わらないもので、分からないものなんですね。今は役者の人が時々あそこにいるようですけども、それですごく魅力を感じるかというところでもなくて、多分、外国人があそこへ行くと、どちらかというともとの自然がすごくきれいだなと、そちらのほうに目行ってしまう。でも、そこでせっかくの三重指定を伝えたかったら、もっと何かCGとか、プロジェクションマッピングみたいな今の技術を取り入れる必要があるなと思います。魅力を感じさせる。本来はこういうもの、昔のユートピアは、今の人から見てもユートピアだったとか、それが見えるような取組が必要かと思います。

---

#### 部会長

やはりバーチャルリアリティの世界をそこにつくり上げてしまうというのも一つですよ。分かりやすい。それこそVRで体験できるような施設、観光地づくりといったことも考えていきたいと思えます。

ありがとうございました。いい意見です。

---

#### 委員

もう一つ、③番目ですが、少し違和感を感じたのは、2番目の「福井の魅力をしっかりと伝えることができる観光ガイド」。これは恐らく日本人観光客向けの観光ガイドを言っていると思いますけれども、インバウンドの対応に関してとなると、今度は通訳ボランティアになる。これでどこまで本当に福井のインバウンドを盛り上げられるのかというのはすごく感じます。

それはむしろ、「外国語のできる観光ガイドの育成」とかはいかがでしょうか。あるいは、在住の外国人にもっと福井のことを知ってもらって、外国人が来たときの観光ガイドとしてすぐに活躍できるようにする。それこそ、それも雇用の一つになるんですよ。

---

#### 部会長

外国人の目線です。そういう目線大事ですね。

今、2つ出ました。デジタル技術とかを使って、本当の福井のすばらしい歴史を体感できるような仕掛け、先ほどVRと言いましたが、そういったところで見せる化をするということと、それからあと観光ガイドで、日本人に限ってではなく、外国語ができるような観光ガイドも必要ではないかなということでもあります。

こんなにたくさん入りますか。精査しながらでということでしょうけれども。

---

#### 事務局

そういうことになるかと思えます。

---

#### 部会長

取りあえず今、たくさんいただいていますけれども、意見集約して。

一通り皆さんからお聞きしましたけれども、先ほどの第1部会から出た2つの意見ですね。「夜間の賑わいや回遊性などを入れていってもよいのでは。」ということ、今はやりの、「アニメ、ドラマ、小説などと連携した仕掛けを創出してもいいのではないか」という話。

これはどうですか。施策で入れ込んでいってもいいのかなど。全然反対ではないんですけども、委員の皆さん、どうでしょう。少し最初に戻りますが、第1部会から出た2つの意見ですね。

特に夜間の賑わいや回遊性というのは、本当に福井市にはないので。

例えば、桜の時期でも県庁のライトアップは9時ぐらいに消えてしまうんですかね。今はどんなものだろう。余計な話ですけども、それぐらい早いという話です。もちろん駅東とか、要するに回遊するにしても暗くてできないというのはありますので、これはどこかで、施策でも構わないと思うんですが、入れていっていただけるといいなと思います。

第1部会の2つ目の意見です。プロモーション活動の中で、アニメ、ドラマ、小説などの連携ということで、これも今はやりで、私みたいな年取った人間は少しよく分からないんですが、やはりすごく受けるでしょうね。これも少し考えていっていただけたらと思いますが。

よろしいでしょうか、この2つについて。必要ないものとかありましたら、ぜひご意見お願いしたいなと思いますが、どうでしょう。

#### 委員

先ほどの第1部会の政策2の「夜間の賑わいや回遊性」などを入れてもいいのではという意見に対して、個人の意見になってしまうんですけども。コロナの影響を考えて、もしこのまま終息すればいいんですが、もし最悪そのままコロナが続いてしまったら、夜間の賑わいとか、回遊性とか入れてしまうとどのように対応されるのかということです。

#### 部会長

そうですね、コロナの今後については、コロナが収束することを前提に考えて。

施策③の3つ目に「新しいリスクに対するため」と書いてありますね。

これは感染症に特化して書いてあるけれども、実は感染症だけではないんですよ。自然災害だって今リスクがすごく大きいし、入れ込むのだったら両方入れ込まないと駄目だろうと思います。自然災害や感染症ですよ、「など」と言ったほうがいいでしょう。まだほかにも新しいリスクはありますので。それを入れ込み出すと、ここまで詳しく書かなければいけないだろうかという話になる。

さっきのお話の考え方も入れると、何か難しい。どう考えたらいいのか。

感染症とか、自然災害を一番のリスクと考えると、恐らく観光産業というのが成り立たなくなってくるだろうと思うんですよ。確かにリスクとして、それに対処するようなことは必要なので、当然、この③の3で書いてあるようなことをもう少し集約して書くべきだと思いますけれども、それは書いておいて。

あと、賑わい、回遊性、夜間のというところは、今は取りあえずこういう時期だからすごくナーバスになっているけれども、あってもいいのかと思う。ただ、これはどちらかという具体的な事業のほうでいいのかなという気もしますので、この段階ではなく、各具体的な事業の中でもし必要であれば入れていこうということでもよろしいですかね。

委員が言うこともよく分かります。いきなり今、こういう時代に、夜間の回遊性もないだろうみたいなことももっともなので、これはちょっとペンディングということにさせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

この本文の中にはこれについては具体的に入れられないということでさせていただければと思います。

アニメはどう？

#### 委員

アニメはいいと思います。

#### 部会長

いいですか。

観光プロモーション活動の一環ですよ。

この観光に関する政策の①が4個、②が3個、③が3個からは増やせないんでしょう。プロモーションで4つになったりというのはどうなんですか。

事務局

程度の問題だと思いますけれども、ボリューム感からいうとこれぐらいかなというところで。ほかとの整合性もありますので。

部会長

そうですね。

特に福井の場合はプロモーションが弱いから、こちら辺で1つ増やして、さっきのアニメ等の何かそういうことも入れてもいいのかななんて思ったんですが、どうでしょうか。

委員

そうですね。確かにアニメの聖地巡礼の旅行というはあるにはあるんですけど、それを言うとなんかアニメだけではなくて、やはりドラマや映画全てでロケで使われたら、ロケツーリズムみたいなものはやっています。なので、当然、個別の具体的な事業としてはいいとは思いますが、この施策の中の一つとして、アニメに限定するのはちょっとどうかなというところですよ。

部会長

分かりました。

皆さん、どうお考えになりますか。今のお考えに賛成ということによろしくお願いしますか。

では、それは具体的な事業段階でもし必要であれば入れていくということにさせていただきたいと思えます。

第1部会の話については、この本文の中には盛り込めないということにさせていただきたいと思えます。

では、ほかはどうでしょう。よろしいでしょうか。ほかのご意見がもしありましたら。

委員

一つ気になったんですけど、施策①の3番の越前海岸の推進なんですけれども、越前海岸で福井市のものだったのかなと一瞬思ったんですが、これについては。

委員

福井市のものです。

委員

福井市ですか。越前町にあるような。

事務局

福井市も越前町も含んで越前海岸です。

部会長

何となく河野とか越前町とか、あそこら辺がメインですけど、越前海岸は一応三国につながる場所まで福井市も入ってはいらっしゃるんですね。

ほかどうでしょう。よろしいですか。

もしなければ、少し意見を集約してみたいと思えます。キーワードだけ述べさせていただきます。確認です。

まず語り部、観光ガイドの育成支援ということをいただきました。広域あるいは市内も含めて観



光圈の確立、観光ルートの提案ということももっとやっていかなければいけないのではないかなどというお話をいただきました。

それから、デジタル社会の到来の中でICTを利活用したいろんな実施計画の必要性というお話をいただきました。

セーレンプラネットの活用ということで、これは表現をまた教育を加味しながら、うまく取り込んで書ければ書いていっていただきたいと思います。

それから、特に今回は新幹線が目玉なので、この新幹線に乗ってくる客をどうつかむかということで、これは他の観光客も含めて考えるところですが、特に新幹線の観光客については、新幹線の観光客に合うルートを組み立てる必要があるのではないかなどというご意見をいただきました。それから、やはり今の新幹線客を最大限に活用するようなことを考えるべきという意見をいただきました。

それから、高齢者という視点が抜けているということで、誘客というか、プロモーションにも入るのだろうし、実際のおもてなしの充実にも入ってくるのかなと思いますけれども、アナログの案内の充実とか、二次交通網の整備とかといったことも少し入れ込んだらという話でした。

それから、MaaSを含む観光アプリとデジタルプラットフォームの確立によって、それを観光化につなげるという話と、いわゆる見る観光から体験型観光へのシフト。これについては、この前いただきました産業観光の話と結びつけて何かこの中に入れておく必要があるのではないかなど。

特に福井の場合、どの地域へ行っても産業観光の脆弱さといいましょうか、そこら辺が見えてきているので、そこを何か表現できたらいいなど。見るから体験型へのシフトですね。

それから、具体的に観光おもてなし市民運動をやっていくと書いてあるけれども、強化であってもいいんだろうということです。観光に対する市民意識の醸成というのをやはりやっていく必要があるんだろうということ。最後に、観光入込客数も大事なんだけど、宿泊客数を増やすという、宿泊倍増計画的なこともどこか入れ込めないかというお話もいただきました。

それから、新しく見えるものということで、なかなか外国人客が来られても地域の宝というか資源がよく見えないので、特に観光資源の中でも戦国城下町の時代の一乗谷朝倉氏遺跡の辺りでもう少しデジタル技術などを使って見える化できたらいいのではないかとということで、VRとかといったことも考えてはどうかという話でした。

それからもう一つ大事な視点なんですが、日本語だけの観光ガイドではとても追いつかないと。やはり外国語のできる観光ガイドの育成というところも入れ込むほうがいいのではという意見をいただきました。

そんなところが今日いただいた意見かと思えます。

これを次回、一度落とし込みをお願いして、そして前の2つの農林と商工を併せて詰めていきたいなど考えております。

ほかに言い残したことございませんか。よろしいですか。

もしなければ、ここまでとさせていただきますと思います。

何度も一緒なこと言いますが、この貴重なご意見を踏まえて、素案の修正を行って、そして次回の部会におきましてはそれをまた審議していただくということになりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

では、司会を事務局にお返ししたいと思います。

### 3. 閉会

司 会

ありがとうございました。

ここで事務局から、次回の専門部会の開催日時についてご連絡いたします。

次回は、6月2日水曜日 15時からこの会場で行う予定となっております。委員の皆様のご出席のほどよろしく願いいたします。

本日はありがとうございました。

(以 上)

## 第八次福井市総合計画審議会 専門部会 第3分野(第2回) 出席者名簿

## 第3部会 産業分野

※委員50音順、敬称略

		氏名	備考	出欠
福井市総合計画審議会	部会長	南保 勝	福井県立大学 教授	○
	副部会長	高見 和宏	福井商工会議所 専務理事	○
	委員	荒川 忠弘	福井労働局 福井公共職業安定所 所長	○
	委員	荒木 敬司	(公社)福井県観光連盟 観光ネットワーク推進事業部長	○
	委員	小川 久美雄	JA 福井県 福井基幹支店 支店長	○
	委員	高田 朋拓	福井県立大学 学生	○
	委員	八田 一以	市議会議員	○
	委員	羅 婷婷	外国人事業家	○
市	策定委員 総合計画	小寺 正樹	総務部 次長	○
		橋本 亜由美	商工労働部 次長	○
	事務局	中村 直幸	総合政策課 課長	○
		村本 幸恵	総合政策課 副課長	○
		南 研一郎	総合政策課 課長補佐	○
		國定 慎吾	総合政策課	○
		島出 浩太	総合政策課	○
		前田 恵里	総合政策課	○